

# 七五三 広報 51,8

発行 新潟県板尾市長

編集 栃尾市総務課(02585) 2-2151

No. 236

とちお第三六号昭和五十一年八月十日発行  
毎月十日一回発行（定価一部八円  
昭和三十一年一月二十日第三郵便物認可



おもな内容	
写真ニュース（比礼小運動会）	2・3
栃尾市史明年3月刊行	4
健康で充実した夏休みに	5
インタビュー「私も栃尾人に」	6
三くんには税務課長です	6
どうおと人物（物語）	7
公星館のページ	3

## 公民館のページ

桝尾市公民館  
桝尾市本町6番2号 (2)2020

(8)

# 農業経営と生活の改善などを検討

# 塩谷地区 産業と文化を築く研究集会

塩谷地区・産業と文化を築く研究集会が、さる7月18日(日)に、下塩谷分館(関根勘一郎分館長)・下塩谷中学校を会場に開かれました。

この集会は、市公民館、下塩谷分館、上塩谷分館、柄尾市農業協同組合が、塩谷地区の産業と経済を守り、健康で明るい生活を営もうという目的で開いているものです。

第7回をむかえた、ことしのテーマは「低成長経済安定期に直面して、私たちには産業の振興と豊かな生活をどのようにしたらよいか」で、三分科会にわかれて話し合いがなされました。

分科会は、「生活の改善」「農業経営」「楽しい地域づくり」で、参加した約百名の人たちは、問題を身近なものとしてとらえ、活発な意見が交わされました。

- 各地域で話し合って、申し合せ事項を決め喜ばれているが、実行はまだむづかしい。  
たとえば、結婚式に三千円の会費制と決めたが、守つた方がバツの悪い思いをした。
- まず、親せき同志なら、話し合いをして、会費制もスムーズに素化からはじめてはどうか。  
親せき同志なら、話し合いができると思う。
- 部落内の決めごとは、区長が中心になつて決定し、地域や市全体のことは、区長会や公民館などでとりあげ、一日もはやく実施の方向へすすめてもらいたい。
- 申し合せ事項ができたなら実行委員会のようなものを作つて、常に協議をしていかなければいけないだろう。
- 全市的に実施する場合でも近火見舞や、忌明け状の廃止など、実行しやすいものから手がけて、序々に実施していくらしい。

■ 農機具購入による、設備投資過剰について

■ 農協で、農機具のとりあつかいの講習会を開いているが、機具を長もちさせるためにもぜひお頼いしたい。

■ 農業が副業となっている現状では、手間がなく三反から四反の農家でも機械を入れなければならない状態である。個人の過剰投資をふせぐにも、農業への意欲のある人に農地を貸して、機械化したら耕地と設備の有効利用ができるのではないか。

■ ある地区では、機械化したが共同作業となると、まだ問題が残っている。

荒廃畠地の利用について

■ 農協や市の協力で、農地基盤整備と農道の整備ができるは、利用は可能になる。

■ 農業への意欲のある人を育成し、ばれいしょ、たばこ、養蚕、乳牛などで荒廃畠地の利用を考えたらどうか。

■中学生、高校生のグループ活動参加について  
中・高校生は、子ども会にも属していないところもあるし、大人のグループにも入っていなく、野ばなしの状態だ。今のところ具体的な手立てはないが、あくまで、家庭や地域で育てるという方針でゆく。■グループの活動する時間を各家庭で組み合わせて、お互に出席できるようにしたい。たとえば、母親は夜ママさんバレーに、父親は朝五時から野球の練習に……その間、年よりが子どもをまかり、老人クラブなどの集会には、気楽に参加する。

■地域の人たちから理解してもらわないと、グループ活動はやりにくい。たくさんの人から理解してもらうために、役員を順に持ちまわりにするとか、ママさんバレーとともに、パパさんバレーをつくるなどくふうをしてみては。

第一分科会

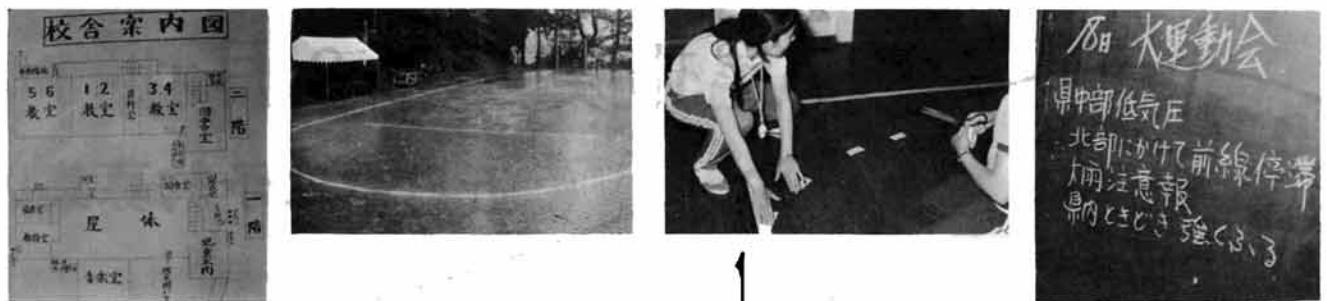
—よりよい生活改善を  
めざして—

第二分科会

## 農業近代化にともなう農業經營をいかにすればよいか ——農機具購入による設備投資過剰と荒廃畠地の利用について——

第三分科会

楽しい地域づくりをするにはどう  
したらよいか  
——グループの育成や  
活動について——



運動会当日新潟県下は大雨注意報発令。競技開始一時間位前から雨になり、開始予定時間頃は、雷を伴ったものすごい雨。急撲屋内運動場に白テープで臨時のトラックを作つて。



父兄、来賓向けのゲーム「竹馬の友」。PTA会長さんもおばあちゃんと組んで見事一着でゴールイン。



騎馬戦の一コマ。お姉ちゃんの背中で下級生は大奮闘。



応援合戦もはなやかに行われました。紅白に別れたそれぞれの人員は少なくとも、各自一騎当千、勝利を目指しての雄叫びが運動場いっぱいにこだまして。



とにかく児童にとって最高に楽しい一日。写真は、親子ゲームの「ミイラづくり」。「お父ちゃん、くすぐっちゃダメ!」「ちやんとしてないと紙がやぶけるぞ」。

# 大運動会

## 比札小学校



競技開始前のひととき。なにしろ屋外グランドのつもりが屋内に変更になり、校長先生も運営にしばし困惑の様子。子供達は、そんなことにおかまいなく、早く早くとせきたて。

全校で十五人の児童。  
小規模校の多い当市でも、超ミニ校 比札小学校。

恒例の大運動会が、七月十八日の日曜日、文字通りPTAが一緒になつて行われた。

あいにくの雨にたたられて、急撲会場を屋外から屋内へ。

強い雨足をながめて、運動会はどうなるだろうと心配していた十五人の児童も、屋内グラウンドで実施と決まってホット一安心。

一時は百人を超えた児童数もどんどん減つて、今はわずか十五人。それでも地域の人達は、子供達に楽し



紅白リレーも全員が参加。比札小学校の屋内運動場は掃除が行き届いてピカピカ。すべての床を気にしながら、一年生から六年生まで一生懸命走りました。



「ガンバレ!」。網引き競技に声援のお父さんも熱が入ります。



「お父さん! 右、右」。右というのは、おはしを持つ手の方だな。親子ゲームで、久しぶりにお父さんに背負われうれしそう。

「ゴールはぐるりとまわってあそこよ、スタートの方法は、クラウチングよ」。先生の説明につぶらなひとみが輝いて。



—— 柄尾に赴任された感想は——  
柄尾に来て、久しぶりに故郷に帰ったようなあんどう感につまっています。私が生れて育つたところも静かなまちでしたので。



